

県P連だより

広島県PTA連合会

陽だまり

No.38

第41回広島県PTA研究大会おたけ大会



おたけ大会
実行委員長
小川 剛司

「大竹市の知恵と力を結集した素晴らしい大会となりました」

大会準備は約1年半前の準備委員会からスタートしました。当初決定していたのは実行委員長ただひとり、当時の大竹市PTA連合会の役員との協議を重ね、昨年の7月に実行委員会を結成しました。市内9校の小中学校を4ブロックに分け、総務、接待、会場、ステージの4部門で準備を始めましたが、当初は手探りで迷走した時期が続きました。大会まで一年をきったあたりから、各単位PTAの24年度の体制も固まり本格的に活動を始めました。大竹市では平成3年以來の開催であり、大竹らしさをどのように大会内容に盛り込むか実行委員会で知恵を出し合い、開催日時、場所の検討から始まり、行政、商工会議所、その他多くの皆様の協力を得て、パズルのピースを合わせるように、少しずつ大会の形を整えていきました。

当初は不安だらけの船出でしたが、スタッフ全員が最大限の能力を出し合い、各方面にお願いに行き、色々と協

力をしていたいただきました。色々な不手際もあり、県P連合会事務局や役員の皆様にもいろいろ迷惑をかけたかもしれませんが、皆様のおかげで、大竹市の知恵と力を結集した素晴らしい大会が出来たと感じております。

「明日ある子どもたち 夢をもつ子どもたちのために」我々おとなたちが手本となり奮起する場として、スローガンとして開催した本大会を契機に、おとなが自らの役割を再認識し、PTA活動という学びの場を通じ子どもと共に成長すること、各郡市のPTA連合会がより一層団結力を高め、明日ある子どもたちのために、県連合会や関係機関と連携しながら未来へ向かった活動が出来るように願っております。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、多くのPTA関係者の皆様はじめ、各方面からいただきましたご支援とご協力に感謝申し上げますとともに、全てのPTA会員の日々の活動に心より敬意を表します。



記念講演中の的川泰宣博士

大会報告

県P連理事 古川アイ子
(世羅町 甲山中学校 母親代表)

大会当日は心配されていた天候にも恵まれ県内各地から1000名を超えるPTA会員の皆様をお迎えし、大会は盛大に開催されました。

会場となった大竹市総合体育館ロビーでは地元特産品を販売され、休憩の際には行列になるほどの盛況ぶりでした。大会の流れとしては、アトラクションからはじまり、開会行事、「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩広島県表彰、2校1連合会による実践発表、2団体によるジャズダンスのアトラクションがあり、「宇宙教育の父」的川泰宣博士の記念講演、閉会行事で無事終了しました。

その中でも「はやぶさと子どもたちの未来」と題した講演は2003年に打ち上げられた「はやぶさ」が7年後に帰還するまでの様々なエピソードをユーモアを交えてお話しいただきました。

親子の絆というものは小学校4・5年くらいまでに形成されるので、親が子どものその時期の大切さをわかってあげるかどうかで子どもの未来が決まる、子どもの心に火をつけて絆を深めることが重要だとおっしゃられていました。未来を担う子どもたちのために親がどうあるべきかを考える良い機会となりました。

第60回日本PTA全国研究大会京都大会報告

8月24・25日開催 県内各郡市P連より78名参加

県P連理事 庄野 知子
(安芸太田町 戸河内小学校 母親代表)

はじめてPTA全国研究大会京都大会に参加しました。昨年のひろしま大会は、体調がすぐれず分科会にも参加することが叶いませんでした。今年には家族の協力もあり「いっおいで」の一言ができました。個人的には数十年ぶりの京都、いつも新幹線で「あーいつか途中下車をしてゆっくり散策してみたい」と思ってた場所。散策は叶い、ませんでした。その分初日の分科会、翌日の全体会では、たくさんのお話を聞くことができました。

私が参加した第5分科会では：基調講演は大蔵流狂言師・茂山七五三（しめ）さんのお話でした（俳優・茂山茂・逸平さんのお父様）。分科会でのお話の内容は「思い切りほめ、しっかり叱る。ときには手がでることがあっても子どものためになるのならそれも良でしょ」確かに！

これは、保護者全体の共通の認識として再確認していかなくてはいけない部分だと思いました。アトラクションでは、京都・祇園

山笠の時以外演奏することはないという雅楽を鑑賞し、子どもからお年の方まで唄を口で伝承していくという伝え方で、その伝承のなかには、やはり厳しさ（礼儀作法など）もたくさんあるというお話でした。

「親が元気に楽しく活動していれば子どもも楽しめる！」これは、パネリストとして参加されていたNPO法人「子育ては親育てみのりのり劇場」代表 伊豆田千加さんのお話の中に取りました。まさしく眼からウロコです！

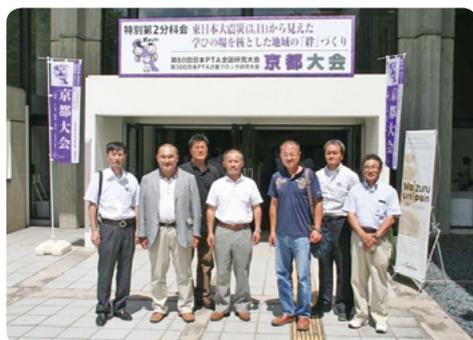
別の分科会のお話では：元女子バレー全日本エースアタッカー大林素子氏は、「スポーツ選手はケガがつきもの」「休む勇氣を持つことが大切」と言われていました。人生も、そう。高い目標を掲げることもいいが、まずは近い目標をもって自信を満たす。大林さんの子どもの頃の夢は「アイドル」でした。今は「女優」にチャレンジ中です。夢を追いかけ続けることも素晴らしいことだと思います。

翌日の全体会は京都国際会議場。講師は歌手の加藤登紀子さん。オープニングでは「百万本のバラの花」が流れ、講演が始まり、お話のなか

で「受験戦争に勝ち抜いて大企業に入ることも立派なことかもしれないが、だが、第一次産業（農業・漁業）にかかわるのはもっとすばらしい！大自然の中にいる子どもたちものびのびしている。」本心にそうだと実感しています。加藤さんのお話にも感動した私でしたが、歌にもチョー感動してしまいました。

東日本大震災被災地・福島原発事故被災地より福島県PTA連合会会長がご挨拶をされました。概要をお伝えします。

震災から1年5カ月がたち、まだ見つかっていない子ども、友人たち



特別第2分科会／舞鶴市総合文化会館



全体会／国立京都国際会館

がたくさんいます。そして、震災ともうひとつ「原発」という事故が起こり、福島県の子どもたちは震災前の半分になっています。

全国各地に福島県から避難している子どもを思いですからどうか温かく育て、見守って下さい。そして「3・11震災」を忘れないで下さい。

短い時間で超ハードスケジュールでしたが、10数年ぶりに講演会・分科会に参加し、とても有意義にそして感動！感動！感動の2日間でした。（なお、京都大会の大会宣言は日本PTA広報誌339号に記載されています）

いじめの問題に対する広島県PTA連合会及び

県内都市PTA連合会の取組み

いじめの根絶と「いのち」の尊厳をきめるメッセージ（お願い）

昨年10月、大津市の中学2年生の男子生徒が自殺するという痛ましい事件が発生しました。報道によれば、その原因はいじめにあるとされており、その後も、いじめを背景とする傷害事件や児童・生徒が自ら命を絶つという事件が発生しており、これらが全て真実だとすれば非常に残念であり、このような事件は今後絶対にあってはなりません。

私たち保護者は、「子どもたちに「いじめ」は人間として「絶対」に許されない行為であること」「子どもたちの心身に深刻な影響を及ぼし、生命も奪いかねない人権に関わる重大な問題であること」をきちんと教えることや、教育の原点である家庭教育のあり方を改めて問い直していかねばなりません。

広島県PTA連合会として、（社）日本PTA全国協議会とともに子ども達を守る視点に立ち、今後の対応について関係機関へ働きかけながら、いじめの根絶と「いのち」の尊厳を考えていただけるよう、次のようなメッセージを配布致しました。

● 私たちは「子育ての第一責任者である」ことを認識しよう。

いじめの問題の未然防止のためには、家庭が重要な役割を担っております。家庭の中の親子の会話やふれあい、信頼に基づく厳しさをとおして、親子の人間関係づくりに努めましょう。

● 子どもたちに「いじめは絶対に許さないこと」だと教えよう。

いじめは許されない、いじめる側が悪いという認識に立ち、わが子がいじめの加害者になったときには、毅然とした態度で教えましょう。また、いじめを傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されないことを教えましょう。

● 子どもたちに「『いのち』の大切さ」を教えよう。

親から授かった命はたった一つです。この大切な命を落とすことになればみんなが悲しみます。「『いのち』の大切さ・尊厳」すなわち、一度失った命は二度と帰ってこないことを教えましょう。

● 子どもたちが発する「サイン」に注意し、見逃さないようにしよう。

わが子をいじめから守るといふ認

識に立ち、平日頃から、子どもとのコミュニケーションづくりに努める中、悩みを親身になって受け止め、子どもが発する「いじめのサイン」を見逃さないようにしましょう。

● いじめの早期発見・早期対応に努めよう。

いじめは「どの子どもにも、どの学校にも起こりえる」という認識のもとに早期発見に努めましょう。いじめが生じた際には、学校や関係機関等に相談するなど、「速やかに対応」しましょう。

● 可能な限り「学校行事」や「地域行事」に参加しよう。

親子で学校や地域の行事に参加し、子どもの生活の様子や交友関係を知り、子どもとの会話を増やしましょう。また、家庭、学校、地域社会のすべての関係者が一体となった取り組みをしましょう。

平成24年9月14日

広島県PTA連合会

会長 岡崎 博

県内の都市P連や単位PTAにおいても「いじめ」の問題への対応についてPTA活動をとおして取り組んでおられます。例えば、福山市P連では全小中学校及び母親代表研修会においてメッセージ文を配布し、いじめ問題に対する取組を推奨されています。また、三原市P連では、東部教育事務所に依頼してのワークショップの実施、呉市P連では行政・学校・PTA・児童生徒によるプロジェクトチームの設立、東広島市P連では教育委員会からの現状報告や広島大学の講演会とワークショップへの参加など、決して学校まかせにすることなく、家庭、地域社会や行政機関などが一体となった取組みが進められています。

県P連といたしましては、これからも広島県教育委員会をはじめ、関係機関・団体とも連携し、情報の収集・交流に努め、各都市P連をとおして皆様へ情報を発信してまいります。



入選
おめでとう
ございます

三行詩コンクール (たのしい子育て)全国キャンペーン

～親子で話そう！ 家族のきずな・我が家のルール～



平成24年9月12日(水)県P連事務局において、「たのしい子育て全国キャンペーン」親子で話そう！ 家族のきずな・我が家のルール」三行詩審査会を県P理事で行いました。

応募総数1261点の中から厳正なる審査により小学生・中学生の部、各30点、一般の部5点を選出させていただきました。小中学生の部は県教委義務教育指導課の指導主事さんに審査をお願いし、各5点の表彰候補作品を選出していただきました。

どの作品も家族のことや自分の気持ちを素直に表現されており、選考が難しいほど良い作品が多かったと思います。なお、選出した15作品は今年から「広島県PTA連合会賞」として表彰させていただきます。本年は、10月28日の県PTA研究大会おたけ大会で表彰させていただきます。また、これらの作品は、(社)日本PTA全国協議会へ第1次審査通過作品として推薦させていただきます。本当に有難うございました。

小学校の部

東広島市立乃美尾小学校2年 眞木原 愛結
はきものそろえ はしそろえ みんなそろって 夕食です

世羅郡世羅町立せらに小学校5年 山下 幸之助
兄弟げんかをするなど、お父さんお母さん言うけれど、ふうぶんかはどうなのよ？

竹原市立竹原小学校5年 森下 匠
いつもにぎやかな家族。父さんの雷落ちて静かになる。でもすぐに、笑い合える家族は不思議だな。

庄原市立東小学校5年 荒木 拓斗
その日あったできごとを ほんこはんで 会話するわがやのおかずに つけくわえ

廿日市市立阿品台東小学校3年 上田 響己
家族でけんかしてもね。すなおにあやまり、なかなかおり。それが、ほくの家の「きずなのかき」なんだ。

中学校の部

東広島市立向陽中学校2年 石田 香保
ケンカのと きもどんなときでも 朝のおはよう、いってきます。これが我が家のルール。

呉市立下蒲刈中学校2年 實谷 未来
父さんが いつも言う 今日学校どうだった 毎日きかれるこの一言 めんどくさいけど ありがたい

神石郡神石高原町立神石中学校2年 森重 友登
なにげないおかえりの言葉 なにげない夜にしてくれる洗濯 なにげない毎日にありがとう

世羅郡世羅町立世羅中学校2年 柳島 信之介
二本のぶどうの木祖父から僕へまかされたさあ、大人になっても大事にするぞ

呉市立阿賀中学校3年 小澤 陽
いってきます！の一声と 家族、待つ家に響く 私の笑顔とただいまが

一般の部

神石郡神石高原町立神石小学校 伊勢村 三千代
夜の雷で 怖いと抱きついてくる息子が いつか誰かを守れますように

廿日市市立阿品台西小学校 富来 博子
誕生日 手書きでくれた 肩もみ券 有効期限のないのらとっておきまですまっとう 君が悩めるその日まで

山県郡北広島町立豊平南小学校 藤本 奈美
父さんにべったりの娘。もう少しで父親を嫌がる年頃。いつまでべったりなのかなと笑ってる私。嫌われたくないと必死に努力する父さん。その努力が無駄になりませんように。

山県郡北広島町立豊平南小学校 新井 賀奈子
お風呂ぐらい、1人でゆっくり入りたいと思っただけど、みんなでワイワイにぎやかなお風呂が楽しかったなあ

安芸郡府中町立府中北小学校 綱木 尚美
通勤前のハイタッチ
短いけれど、父と子供の 心の交流

特色あるPTA活動

137年の歴史に幕 心に残る閉校記念事業

三原市立神田小学校PTA

会長 舛谷敏文

1 事業目的

学校・地域・保護者が心を一つにして、閉校記念事業を成功させる。

2 事業内容

平成25年3月に神田小学校は、137年間の歴史に幕を閉じます。学校への感謝の気持ちを表現するために、学校の宝づくりを、学校・地域・保護者で取り組んでいます。

3 主な活動

このたび三原市適正配置により、大和町の5校の小学校が統合されることになり、神田小学校も平成25年3月に137年間の歴史に幕を閉じることになりました。

私も神田小学校の卒業生であり、今でも校歌を歌えます。閉校記念事

業実行委員会に作っていただいた「ありがとう神田小学校」の横断幕を初めてみたときは、涙がとまりませんでした。

感動・笑顔・感謝いっぱい
PTA活動にし、心に残る1年にしたいと思いきり取り組んだ中で、2つのことを紹介します。

地域運動会でバルーンメッセージ

今までは小学校だけの運動会でしたが、今年は午後から地域運動会にし、地域の方にも参加を呼びかけました。最後に大きな円になり、地域・保護者・子どもたちみんなで大和町の「ふるさと音頭」を踊りました。そして、閉校記念に200個のバルーンメッセージを書き、みんなで空に飛ばしました。そのバルーンは、山口県の下関市や長門市にも

届いたと連絡がありました。

小学校の最後を飾る雅楽演奏

雅楽は、1300年以上の間、宮中を中心に伝承されてきた日本の伝統音楽です。雅楽は世界最古のオーケストラと言われており、現代音楽にも多くの影響を与えています。

小学校の最後の宝物をつくるために、地域の指導者に、5・6年の児童が雅楽を学んでいます。PTAも、そんな子ども達の力になろうと、児童の衣装づくりに、8月～10月の約3ヶ月をかけて取組みました。保護者のがんばりも子どもたちの努力に後押しとなって懸命に練習しました。子ども達は三原市の代表として「ひろしま自慢」にも出演し、神田小の最後を飾る高学年として、立派な演奏ができました。



4 そして、最後の1年

閉校に向けてみんなが一丸となって、子どもの心に残る思い出づくりに取り組んでいます。

そして、神田小学校は閉校しますが、新しい大和小学校を特色ある学校にしていきたいと思

他の地域からも大和に
通わせたいと思われるような学校に
していけるよう、PTAも学校と一
緒に力を合わせて頑張っていこうと
考えています。



心のきずな61キャンペーン
 ロPからの緊急報告

1 □ 平成27年度までのキャンペーンはどう展開されるのか？
 年次別目標金額

当初の計画である9億5千万円を必達目標として、今後も支援金募金活動を継続するが、目標額を集めるには時間がかかることから、次のとおり段階的に目標を定める。

第1次目標	平成25年3月31日	5億円
第2次目標	平成26年3月31日	6億5千万円
第3次目標	平成27年3月31日	8億5千万円
第4次目標	平成28年3月31日	9億5千万円

2 □ 公益信託基金（教育援助基金）設立
 本来、9億5千万円で設立可能なものですが、目標を大きく下回ったため、できる部分から始めるよう計画を修正している。しかし、助成内容の修正は、あくまでも基金の早期設立を理由としたもので、今後も追加基金を上乗せし、当初の計画通りの助成内容とすることを目指す。
 平成24年度後半のキャンペーンは？
 キャンペーン実施内容

各県連合会（協議会）が主体となり、取り組みやすい手法で募金活動を展開する。

〈活動例〉

- ・全国一斉街頭募金活動は、3月1日～24日の間の任意の日に行う。
- ・企業を対象とした支援金募集活動や企業と連携した募金活動を行う。

2 □ パンフレット等のデータを使用する場合は日Pへ承諾申請する。
 実施スケジュール

11月30日	グッズ申し込み締切
2月	支援金募集計画提出依頼
2月	日P理事会において中間報告
3月1日～24日	全国一斉街頭募金活動の実施依頼（再掲）
3月27日	平成24年度支援金最終締切
4月1日	公益信託基金設立（予定）
平成25年度支援金募集開始	

1 □ 日本PTAからのサポート体制
 グッズの提供

- ① 従来からの3点セットは一定数までは無料提供
 - ② Tシャツ・ピンバッジ等是有料販売
 売上の一部を支援金へ充当
 - ③ 情報の共有化
 - ④ メール配信やHPで公表
 - ⑤ 心のきずなロゴデータ送信・活用
 - 3 各ブロック会長や事務局が窓口となり、日Pとの調整システムの構築 ほか
- （平成24年10月23日日P役員会資料より抜粋）
 （募金状況によっては内容の変更もあります）

編集後記

本号は、年間の編集計画とは別に「いじめの問題に関わるメッセージ」や「心のきずな61キャンペーン」などの緊急性のある内容を掲載しました。従いまして、編集内容の一部を変更しておりますことをご了承ください。

充実の補償で
 お子様を
 サポートします

●誤って他人のものを壊したり、他人にケガをさせてしまったら…
 （加害事故の補償）

インターンシップ（職場体験）やアルバイトに起因する賠償責任も対象となります。

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生する急激かつ偶然な外来の事故によるケガや病気*の補償

*病気入院補償はWプランのみ対象です。



団体割引適用で
 割安な保険料！

（注）動産総合保険（携行品一式特約付帯）には、団体割引による割引は適用しません。
 スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

- 学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
- 育英費用 等

充実の補償でお子様をサポートします。
 広島県PTA連合会
 小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度はこども総合保険・動産総合保険（携行品一式特約付帯・学校管理下中のみ担保）のペットネームです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。
 平成24年6月作成 募文No12-T-01740



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問い合わせ先・取扱代理店：(株)東海日動パートナーズ広島 保険会社：東京海上日動火災保険株式会社 広島支店 広島中央支店
 TEL：0120-018-217 TEL：082-511-9194

共同引受保険会社

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

共同引受保険会社

MS&AD 三井住友海上火災保険株式会社